

4月号 ごあいさつ

先人、先哲から学ぶ人間尊重を原点とした企業経営

日本人の誇りを持って生きた男、出光佐三 『日本人へかえれ』

株式会社 山西 あすなる会顧問
代表取締役会長 西 垣 洋 一

かつて日本は、他国から「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と称され、1990 年前後、世界の羨望的でした。それがいまや 2024 年の IMF 統計による一人当たり GDP は 39 位、G7 の中でも最下位。世界競争力ランキングは過去最低の 38 位という状態にあります。又、日本の世相を見ても、政治・経済・社会風潮においての不祥事が絶えません。日本人が持っているとされてきた美徳や廉恥心(恥を知る心)、伝統に培われた倫理観や道徳心は消えてしまったかのようにはさえます。

現在の世界情勢を見ると、ロシアによるウクライナ侵攻や中東情勢の混乱などの緊張が高まり、各国の政治状況も益々不安定化するなど、これまでの価値観が揺らぐ状況が続いています。又、大統領へ返り咲いたトランプ氏の米国第一主義は、自国の利益を追求する姿勢であり、関税や補助金を通じて米国内の産業集積を狙うと見られ、貿易・投資を通じた世界経済へのインパクトは大きいと言えます。追加関税は貿易動向だけでなく、生産拠点の再編など投資にも影響し、米国の保護主義的政策運営に対し、世界各国が対抗措置を講じる可能性もあり、貿易・投資にかかるコスト・不確実性は更に増しています。

世界の変化には目を見張るばかりで、現在の日本の置かれている立場としては、アジア圏においても厳しい状況に置かれています。日本は変化に対して驚くほど慎重で臆病に感じられると共に、国家としても自律・自立、独立自尊の精神が欠けているように思います。

出光佐三 著書 『日本人へかえれ』はしがき文章抜粋

「戦後、四分の一世紀を過ぎ、日本は見事な復興をなしとげて、さらに“経済大国”とよばれるほどに成長しました。そして 70 年代が国際化の時代といわれるように、日本はいまや世界を相手に発言し、主体的に選択、行動しなければならぬ時代に入ったわけです。

この新しい時代を迎え、われわれはあらためて日本および日本人とはなにかという根本的な問いをみずから投げかけて、これからの日本のあるべき姿に深い思いをひそめなければならぬと思います。

百年前、あの明治維新に、若き志士たちが日本の伝統を踏まえながら、広い視野と果敢な行動力をもって、近代日本の基礎を築きあげていったように、現代日本の青年もまた、今日の国際的な試練の場に立って、日本の将来を決定づける重大な責務をもっているといえます。

『私は日本人として、日本人らしく、実行の道を歩いてきた。妥協を排し、誘惑に迷わず、ただひたすらに日本人の道を歩いてきたにすぎない。』

これは、本書の著者、出光佐三が、八十七年の豊かな人生経験と、六十年にわたる事業経営をふりかえって吐露した言葉であり、信念です。」

人間尊重を原点とした企業経営を実践し続け、出光興産百年企業の礎を築いた出光佐三氏の生き方は、現代の我々にとって学ぶべきことは多くあります（右図参照）。出光氏は生涯を通して、日本人にかえれ、ということと呼びかけました。そのために必要なのは「互譲互助」という精神だと言います。『日本のお互いに譲り合い、互いに助け合うという「互譲互助」、「お互い」という道徳のあり方ではないのでしょうか。「お互い」ということで解決できないものはなにか一つありません。』と出光氏は言います。

戦後、出光氏は石油業界にあってメジャー、及びメジャーと結託している当時の日本の石油会社、そしてそれらと同調する官と戦う中で、常に正論を吐きながら、消費者のため世のため日本のためというこの一点で物事を考え抜き、行動されてきました。我々もこれからの時代にあるべき国の姿、企業のあり方、人としての生き方をよく考え、物事の本質を求め、互譲互助の精神を持って果敢にチャレンジしていかなければなりません。そのためには出光氏が「日本人にかえれ」と唱えられたように、今こそ日本人のよさを再認識することから始めるべきでしょう。

出光の主義方針 - 歴史 出光興産

人間尊重

- 一、出光商会の主義の第一は人間尊重であり、第二も人、第三も人である。
- 一、出光商会はその構成分子である社員の人格を尊重し、これを修養し、統治し、鍛錬し、かくして完成強化されたる個々の人格を、更に集団し、一致団結し、団体的偉大なる威力を発揮し、国のため、人のために働き抜くのが主義であり方針であるのであります。

大家族主義

- 一、いったん出光商会に入りたる者は、家内に子供が生まれた気持ちで行きたいのであります。店内における総ての事柄は親であり子であり、兄であり弟であるという気持ちで解決していくのであります。
- 一、出光商会は首を切らないという事が常識となっておる。首を切られるなど思っている人は一人もないと思います。

独立自治

- 一、仕事の上においても、私のみが独立しているわけではありません。店員各自が、その持ち場持ち場において独立しているのであります。換言すれば、自己の仕事の範囲では全責任を負い、完全に事務を遂行すべきであります。
- 一、私生活に公生活に独立自治の大精神を体得し、個々に鍛錬強化されたる店員が店全体の方針の下に一条乱れず一致結束し、団体的総力を発揮するのが、すなわち出光商会であります。

黄金の奴隷たるなかれ

- 一、出光商会は事業を目標とせよ。金を目標とするな。しかしながら決して金を侮辱し軽視せよと言うのではない。
- 一、事業資金として大いに金を儲けねばならぬ。経費も節約せねばならぬ。冗費無駄を省かねばならぬ。ただ将来の事業を邪魔するような、儲け方をしてはならぬ。あくまでも事業を主とし、資本蓄積を従とし、この本末を誤ってはならぬ。

生産者より消費者へ

- 一、創業に際し、先ず営業の主義を社会の利益に立脚せんとしました。内池先生より示唆されたる生産者より消費者への方針を立てたのであります。
- 一、生産者に代わって消費者を探し、消費者に対しては生産者の変遷、品質の改善発達の状態、需給の釣り合い、市場の情勢、価格の変動等について専門的の知識を供与し、相互の利便をはかる機関は社会構成上絶対必要なる事であります、社会と共に永久であるという信念を持ったのであります。